

地球観測の推進戦略(案)【概要】

経緯

ニーズ

- 地球観測に対する社会要請(ニーズ)の多様化・高度化等
- 国際協力の強化による地球観測システムの確立

基本戦略

「今後の地球観測に関する取り組みの基本について(中間取りまとめ)」(平成16年3月、総合科学技術会議決定)

具体化

推進戦略

- 「地球観測の推進戦略」
今後10年を見通した推進戦略の策定
- 「分野別の推進戦略」

統合された観測システムの運用

包括的な地球観測

複数システムから構成される全球地球観測システム(GEOSS)の構築

地球観測サミット

第1回(平成15年7月、ワシントンD.C.)
「10年実施計画」の取りまとめに合意

第2回(平成16年4月、東京)
「10年実施計画」の枠組みの決定

第3回(平成17年2月、ブリュッセル)
「10年実施計画」の決定

GEOSS

基本戦略

利用ニーズ主導の統合された地球観測システムの構築

地球観測システムの国際的な統合において我が国の独自性を確保しつつリーダーシップを発揮
アジア・オセアニア地域との連携強化による地球観測体制の確立を先導

推進戦略

戦略的重点化

重点化の観点

- 国民の安心・安全の確保
- 経済社会の発展と国民生活の質の向上
- 国際社会への貢献

喫緊に対応すべき5つのニーズ

- 地球温暖化に関わる現象解明・影響予測・抑制適応
- 水循環の把握と水管理
- 対流圏大気変化の把握
- 風水害被害の軽減
- 地震・津波被害の軽減

地球観測システムの統合化

統合化の方針

俯瞰的な立場から策定された「推進戦略」の下、関係府省・機関の特徴や強みを活かし、データ収集、情報化、情報提供の各段階で統合化を促し、それぞれを連携

統合された地球観測システムのあり方

- ニーズの集約とその実施計画への反映
- 施設や設備の相互利用及び共同運用
- 新規観測の合理的な導入
- 民間活力の活用
- 実施計画の透明性と成果の発信
- 品質評価・品質管理の強化
- 長期継続観測の実現
- データ共有と利用促進
- 次世代をにう人材の育成

国際的な地球観測枠組への貢献

全球地球観測システム(GEOSS)への貢献
統合された地球観測システムの構築を通じて地球観測能力の向上により、「地球観測に関する10年実施計画」の実施を強力に推進、地球観測の先進国として国際社会へ貢献

推進体制

- 統合された地球観測システムを運用するために、文部科学省の科学技術・学術審議会に「推進組織」を整備し、具体的な実施方針を毎年策定
- 国として特に重点的な取組の必要があり、その成果がGEOSSで示された「利益分野」に資する分野については、既存の枠組みを可能な限り活用し、適切な範囲の分野ごとに関係府省・機関の連携を促進する「連携拠点」を早期に確保
- 総合科学技術会議は、実施方針に基づく事業の進捗状況をフォローし、その結果を次年度以降の実施方針に反映、総合的な評価及び国内外の動向を踏まえて、必要に応じて「地球観測の推進戦略」を見直し

総合科学技術会議の下、関係府省・機関、推進組織、連携拠点が密接に連携・協力し、統合された地球観測システムを構築・持続的運用